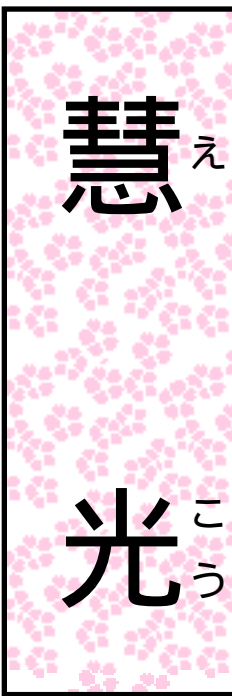




春の訪れ 蠟梅の開花 (西村忠文家墓地・2月6日撮影)



金光寺寺報 第188号 発行所 金光寺 宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町大字鞍岡 5927番地 0982 83-2338

今月のことば

如来すなわち涅槃なり 涅槃を仏性となづけたり

2月の法語は、『浄土和讃』の第九十三首前半の二句です。

如来すなわち涅槃なり 涅槃を仏性となづけたり 凡地にしてはさとられず 安養にいたりて証すべし

まず「如来」とは、「阿弥陀如来」「釈迦如来」などといわれるように、さとり(正覚)に至られたお方のことで、「仏」ともいいます。「さとりの真理が、生きとし生けるものを救うはたらきが、如来であり仏である」ということになります。「涅槃」とは、自己中心的な欲望の活動である「煩惱」を吹き消し滅尽して煩惱の世界から解放されるという、煩惱の炎が吹き消された静かな境地を意味し、さとり(正覚)を意味するものです。

さらに「仏性」とは、まさに、さとり(正覚)

を得られた仏の本性ということです。また、『涅槃経』にはあらゆるものが本来さとりを得る本性を持っていると説かれています。

そして、後半の二句で「しかし、煩惱の苦悩の中にある凡夫には、この真理の体得(さとり)を達成することはできない、安養浄土に至ってこそ達成できる。」と詠われているといただくことができます。

煩惱の世界にどっぷり浸かっている私どもには、とても仏・如来の境界、さとりの境界を知ることもし、感じることもし、できません。阿弥陀さまの大慈悲のはたらきをいただいてこそ、浄土への道を歩ませていただくことができ、「安養」(極楽浄土)に往生してさとり(正覚)を得ることができるのである、と知らせていただくのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 3月 2日(木) 終日
4月 3日(月)~5日(水) 6日(木) 終日 15日(土) 午後~16日(日)
5月 14日(日) 終日
6月 24日(土) 午後 25日(日) 終日

1月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2017年 1月20日 寂 満83歳 倉元 土持 美和子 様
2017年 1月26日 寂 満95歳 小切畑 森岡 千枝子 様

ホームページ開いています。 URL http://konkhoji.jp/ 2月6日現在 アクセス数 78,653人

「花より団子」の私、植物の名前をあまり知らず、先月号の表紙の写真もインターネットでその名前を調べましたが、ぴつたりには出あわなかった。そこで、「千両の実かな?」と書きまして、ご存知の方(山本ミチコさん)から八ガキで教えていただきました。「ピラカンサ」というそうです。山本さんありがとうございました。そんなこともあり、植物の名前がわかる便利な物はないかと思つていまして、そんな時に新聞のチラシにあったカシオの電子辞書の広告が目に入りました。広辞苑や百科事典など便利な辞書機能がたくさんあり、その一つとして植物辞典が紹介されていまして、季節ごと、花の色ごとの辞書です。思わず心が動いた。高く、今回は見送り(かな?)という事で、これから私も自信なげに写真を掲載させていただきます。ご協力をお願いします。団子を食べすぎ少々(かな?) 太り気味の住職です。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

床の間

お正月です。床の間には、おめでたい書画を掛け、お正月らしい置物やお花を飾りました。初春をお祝いする雰囲気があ

ふれています。室町時代には、僧家において壁に仏画を掛け、その前に押板を置き、その上に花、燭台、香炉を飾り、礼拝をしていました。その押板を床といいましたが、それがしだいに変化して、作りつけになったものが、床の間のもとの姿でした。つまり、床の間はお仏壇の遺風であるといわれています。後に、中国から宋元画が輸入され、掛軸を飾る場所となつたり、桃山時代には茶道の影響をうけたりして、床の間はしだいに変わっていききました。

その頃の床の間は、正面の幅が広く奥行きは浅いものでしたが、これが今日のような姿になつたのは、江戸時代の初めの頃だと言われています。だれですか。床の間を物置代わりしている人は。小さな空間ですが、生活のゆとりの場所ですぞ。大切にしてください。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART 1 から)

# 葬儀と和讃

住職の立場として、最近特に感じ入るのは、葬儀の際につとめる親鸞聖人のご和讃によるお導きです。

浄土真宗では人がお亡くなりになると次の順序で故人をお送りします。

臨終勤行(枕経)・通夜・葬儀・火屋勤行(火葬場の勤行)・還骨(火葬後自宅にお骨が帰つての法要)

そして、いずれのお参りでも和讃をつとめます(火屋勤行を除く)。そして、その度ごとのお示しは、私たちが阿弥陀さまの一人はたらきでお浄土へ救われていくよるごびを教えてください。

今月号から数回に分けて、そのお示しを皆さんとともに味わいたいと思います。また、葬儀についてのご質問を折々にいただいておりますので、そのことについても一緒に考

えていきましょう。

## 臨終勤行

(原文)

弘誓のちからをかぶらずば  
いずれの時にか娑婆をいでん  
仏恩ふかくおもひつつ  
つねに弥陀を念すべし

(現代語)

阿弥陀仏の本願のはたらきを  
受けなければ、はたしていつ娑婆  
世界を出ることができようであらう。  
仏のご恩を深く思い、常に阿弥陀  
仏の名号を称えるがよい。

(原文)

娑婆永劫の苦をすてて  
浄土無為を期すること  
本師釈迦のちからなり  
長時に慈恩を報すべし

(現代語)

娑婆世界の果てしなく長い間  
の苦を捨て、浄土でさとりを得る  
と期することができるのは、釈尊

のお力によるのである。いつもその  
大いなる慈悲の恩に報いるがよ  
い。

この二首を臨終勤行のとき  
に『仏説阿弥陀経』をつとめ  
た後に添えます。

臨終勤行は、命終わらんと  
するときに臨んで行く勤行で、  
本来、命終わらんとする本人  
が阿弥陀仏への報恩感謝の儀  
式として行う勤行ですが、多  
くの場合、命終わった後に故  
人に代わって僧侶と故人の親  
族で勤められます。

私たちは迷いの世界を生ま  
れ変わり、死に変わりして娑  
婆で生活しています。そうす  
ると今受けている「苦」は今  
生じた「苦」ではなく、長い



間受けていた「苦」というこ  
とになります。その「苦」を  
捨てて娑婆世界を出ることが  
できるのは、阿弥陀仏の本願  
のはたらきを受けなければ出  
ることができず、その阿弥陀  
仏の本願のはたらきを明らか  
にしてください。お釈  
迦さまのお力によるのですと  
親鸞聖人はこの二首でお示し  
ください。

そして、私たちが救われて

いくのは「浄土無為を期する」と述べられるように、私たち  
の力ではなく、阿弥陀さまの  
本願のはたらきによるものと  
しっかりと示しになってくだ  
さい。

故人の臨終勤行の儀式に際  
し、この私も故人と同じよう  
に阿弥陀さまの本願のはたら  
きで救われていく、お浄土と  
いう世界に出遇えていること  
に気づきたいことです。

# 法語の世界

〈原文〉

仏法談合のとき物を申さぬは、信のなきゆゑなり。わ  
が心にたくみ案じて申すべきやうに思へり。よそなる  
物をたづねいだすやうなり。心にうれしきことはその  
ままなるものなり。寒なれば寒、熱なれば熱と、その  
まま心のとほりをいふなり。仏法の座敷にて物を申さ  
ぬことは、不信のゆゑなり。また油断といふことも信  
のうへのことなるべし。細々同行に寄合ひ讃嘆申さば、  
油断はあるまじきよしに候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 二二三)

〈現代語訳〉

「仏法について話しあうとき、ものをいわないのは、信心  
がないからである。そういう人は、心の中でうまく考えてい  
わなければならぬように思っているのであるが、それは  
まるでどこかよそにあるものを探し出そうとしているかのよ  
うである。心の中にうれしいという思いがあれば、それはそ  
のままあらわれるものである。寒ければ寒、暑ければ暑、い  
と、感じた通りがそのまま口に出るものである。仏法につ  
いて話しあう場で、ものをいわないのは、うちに信心がないか  
らである。しばしば念仏の仲間とともに集まり、み教えを聞  
いて喜び語りあうなら、油断するということはあはらずがな  
いのである」と、蓮如上人は仰せになりました。

## 二〇一七年春季彼岸会法要のお知らせ

日時 三月二十日(月) 午前九時三十分

場所 金光寺本堂

勤行 正信念仏偈(草譜) 六首引き

講師 浄光寺 下野(衆徒) 寺 専 慈 師

その他 経本・念珠・式章をご持参ください。

法要終了後仏教婦人会総会を開催します。

## 法事日時予約について

法事の日時について、ご連絡をいただいた順に日程を決めています。希望の日時がありましたら、早目にご連絡ください。

なお、年回忌法要はお命日を過ぎてつとめても大丈夫です。

## 初盆会の日程について

毎年、初盆会にご連絡を頂いた順に日程を決めています。本年初盆をお迎えするお宅で、時間を決めて法要後のお齋をお考えのところは早目にご連絡ください。なお、下記は日程が決まっています。

記

8月13日 10時、11時、12時

8月14日 11時